

家計の収支動向と出生率への影響

Influence of Household Income and Expenditure on Fertility Rate

伊原 一 (統計センター)

Hajime IHARA (National Statistics Center)

hihara@nstac.go.jp

出生率の変動要因の1つとして家計の収支動向に着目し、合計特殊出生率(TFR)と家計の収支係数について対数値による時系列の回帰分析を行った。この結果、家計の収支係数とTFRの対数値は相関係数0.88となっており、家計の収支動向が出生率に影響していると思われるという結論が得られた(図1、図2)。

家計の収支係数 f については、収入係数 i 、消費係数 c 、物価係数 p を用いて定義している。家計収支は収入が増えればプラスに影響して収支は改善し、逆に消費が増えるか物価が上がればマイナスに影響して収支が悪化する原因になると考えられる。

家計の収支係数 f と TFR についてはそれぞれ 1970~2014 年の対数値を計算し、回帰分析により回帰係数 と切片 を求めている。収入と消費については家計調査年報(総務省統計局)の農林漁家を除く2人以上の勤労者世帯の実収入と消費支出、物価については2010年基準の消費者物価指数(総務省統計局)を用いている。

$$\text{回帰式 } \log(TFR) = \log(f) +$$

$$\text{収支係数 } f = \frac{i^3}{p c}$$

収入係数 $i = (I + I) / I$ I : 実収入
消費係数 $c = (C + C) / C$ C : 消費支出
物価係数 $p = (P + P) / P$ P : 物価指数

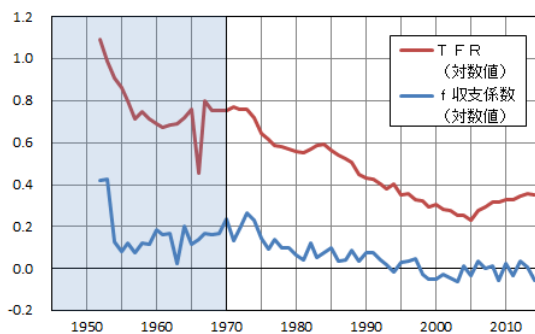


図1 収支係数 f と TFR の対数値

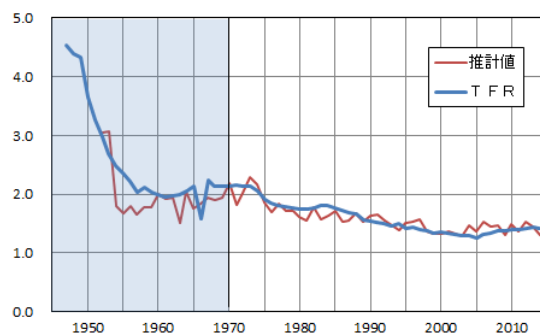


図2 家計収支による TFR 推計値

参考：家計の収支動向と出生率への影響 ~家計収支モデルによる出生率推計~
エストレーラ 2015年8月号(平成27年度統計研修所における研究)